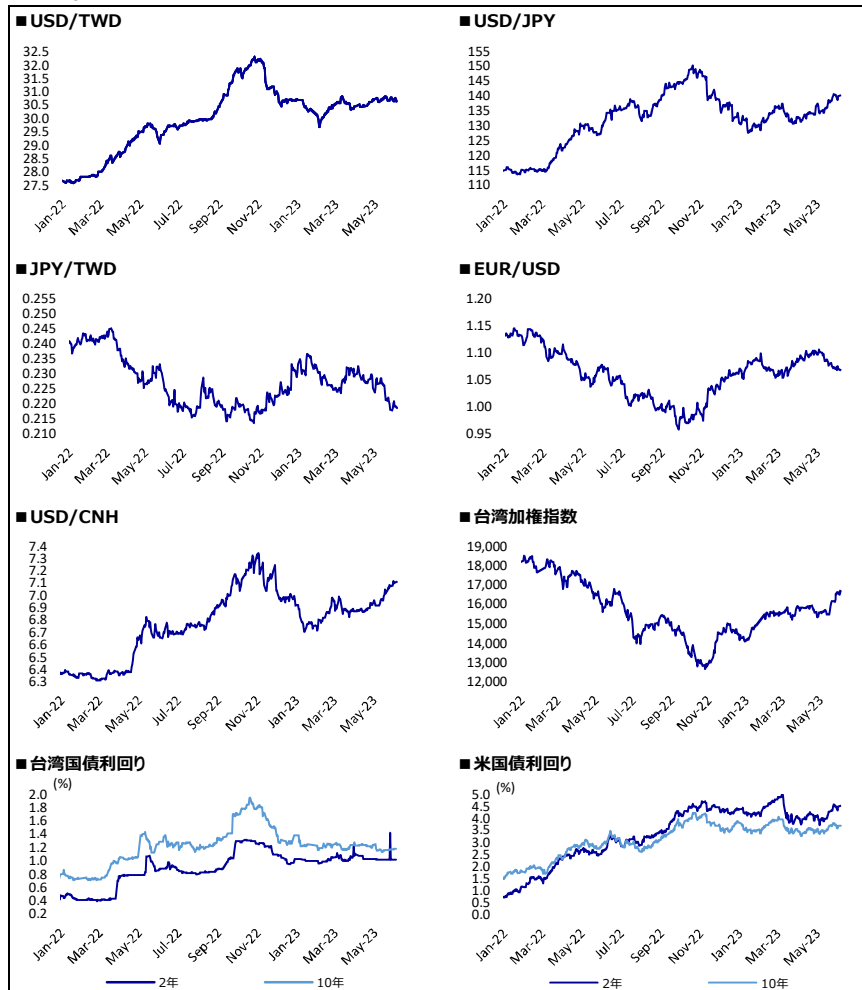


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/29は30.730でオープン後、週末に米債務上限問題について基本合意されたことからリスクオフの流れで台湾株高台湾ドル高となり、30.6台前半まで下落。5/30も海外資本の流入が続き、台湾ドル買いが優勢で一時30.536まで下落。しかし、台湾株の上値が重く推移すると外資の流入が反転し、国内投資家の資金流出もあり、30.6台半ばまで反発。5/31は中国5月製造業PMIが予想に反し悪化したことから中国景気に対する懸念が高まり、人民元の下落と共に台湾ドル売りが優勢となり、一時30.770まで上昇。6/1は中国5月財新製造業PMIが予想を上回り、中国景気減速に対する警戒感が一時後退し、台湾ドルが買われ、30.6台後半まで下落する場面も見られたが、人民元が再び売られると30.7台で推移した。6/2は米債務上限合意案の可決やFRBの6月利上げ見送り観測の高まりを背景にドル安が進み、台湾株が反発する中、30.6台半ばで推移し、最終的には先週比0.3%ドル安台湾ドル高の30.655で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は562.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初5/29は140.61でオープン後、米債務上限問題について基本合意され、リスクオフの流れとなり、141円近くまで上昇するも一巡後は英国、米国が休場となる中、140円台前半で方向感なく推移。5/30は実需の売り買いが交錯しながらも一時140.93まで上昇するも、財務省・金融庁・日銀の三者会合が行われたとの報道を受け、為替介入への警戒感から円買いが優勢となり、139円台後半まで反落。5/31は中国5月製造業PMIの結果を受けて、リスク回避の円買いから139円台前半まで下落。しかし、米4月JOLT求人件数の強い結果を受け、140円台半ばに上昇も、ジェファーソンFRB理事が6月会合での利上げ見送りを支持すると、米金利が低下に転じ139円台前半に反落した。6/1は米下院での債務上限法案の可決や中国の経済指標の結果を受けてリスクオフの流れとなり、139円台後半まで上昇するも、米1〜3月期単位人件費(確報)や米5月ISM製造業景気指数の内容がインフレへの警戒感を後退させ、一時138.44まで下落。6/2は米雇用統計の発表前に139.00付近のレンジで推移。米5月雇用統計が発表されると失業率は悪化したものの、非農業部門雇用者数は予想を大幅に上回り、リスクオフの流れとなり、ドルは買われ、一時140円台に乗せるも利益確定の売りも入り、最終的に先週比0.4%ドル安円高の139.98で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.500-30.800
今週はレンジでの推移を見込む。イベントも経過し、翌週にFOMCを控える中、一旦様子見相場となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.50-141.50
今週はレンジでの推移を見込む。翌週に米5月CPIとFOMC、BOJを控える中、先週はFRB高官からの6月利上げを見送るとの発言があった一方、堅調な雇用環境が確認されており、見極めは難しく、様子見ムードが強まり、レンジでの推移となるであろう。

今週の予定

6/5 (MON)	米4月製造業新規受注、5月ISM非製造業景況指数
6/6 (TUE)	台湾5月CPI
6/7 (WED)	台湾5月貿易収支、米4月貿易収支
6/8 (THU)	米新規失業保険申請件数
6/9 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。